“悔しさ”をバネに走り続ける

挑戦者 －第24回－

学法石川高校３年
陸上競技部
橋本（はしもと）櫂知（かいち）

学法石川高校陸上競技部で３年間競技に励んだ橋本櫂知さん。学法石川は、毎年12月に開催される全国高等学校駅伝競走大会（以下、都大路）に12年連続14回目の出場を果たすなど、言わずと知れた陸上競技長距離の強豪校です。中学１年時から本格的に陸上競技を始め、部活動やクラブチーム、ふくしま駅伝田村市チームの練習などで力をつけた後、学法石川に進学した櫂知さん。全国トップクラスの環境で仲間と切磋琢磨（せっさたくま）しながら、ひたむきに練習を重ねた３年間と、新天地での目標について伺いました。

Profile

2005年９月２日生まれ。船引中出身。168cm、49kg。自己ベスト5000m14分44秒15、3000m8分36秒7。中学時代は陸上競技部のほかVOLG running club所属。安定力のある走りが強み。恩師は松田和宏監督、好きなスポーツ選手は篠原倖太朗選手（駒沢大学）。趣味は温泉、サウナ。好きな食べ物はパスタ。将来の夢はスポーツをする人を支える人になること。座右の銘は「塵（ちり）も積もれば山となる」。

学法石川での3年間

「スピードを磨きたい」、「今よりも上のステージで強くなりたい」という思いで学法石川への進学を決めました。親元を離れての寮生活で、はじめは何事も精いっぱいで苦労しましたが、徐々に練習にも慣れ、２年時に５０００ｍを14分台で走ることができ、自分の目標としていた壁を一つ乗り越えられました。

しかし、その後自己ベストを更新できず、伸び悩む日々が続き、３年時に出場したレースでは１度も満足できる記録を出せませんでした。特に、３年時の都大路出場メンバーの選考がかかった記録会では、メンバーに入っていけるところまで練習を積めていましたが、〝本番〟になるとあと一歩が踏み出せなくなり、自分の弱さに勝てず、結果を出せませんでした。

競技を続ける原動力、今後の目標

悔しい思いが残りましたが、学法石川に進学したことで、厳しくも質の高い練習を経験でき、スピードや粘り強さを身に付けられました。そして何より、競技力が高く、向上心を持ったチームメイトに出会えて、本当に良かったです。苦しい時や悔しい時には、いつもチームメイトの支えがありました。この３年間で得た仲間との関係が大学でも競技を続ける原動力になりました。これからも励まし合いながら、「箱根駅伝を走る」という目標を現実にできるように頑張ります。

大会の様子（前から２人目が櫂知さん）

〝覚悟〟を持って入部してくれた印象でした。最初は他選手との力の差に、自信をなくすこともあったようですが、それでもコツコツ頑張って、走りだけではなく、中心となってチームを引っ張ってくれて、とても頼りにしていました。大学では高校で磨いたスピードに加え、さらに持久力をつけることで活躍できる選手になれると期待しています。練習を継続できる能力も高いので、自信を持って競技に励んでほしいです。

顧問 松田（まつだ）和宏（かずひろ）先生

アソベンチャークラブ

１月13日、常葉公民館で「お正月あそびともちつき」が開かれ、クラブ員17人が参加しました。

「お正月あそび」は、ひょっとこやおかめの福笑いを作り、友達と見せ合いながら盛り上がりました。

また、「もちつき」では、みんなの「よいしょ」の掛け声に合わせ、きねを使い、餅をつきました。ついた餅はJA女性部常葉販売グループの皆さんと保護者の方の協力で、雑煮を作っていただきました。このほか、子どもたちがじゅうねんをすったさい餅と一緒に参加者全員で味わい、お正月の行事を楽しみました。

次世代移住定住会議＆移住者交流会

１月６日、大越町の和風ダイニング加賀で、移住者と中学生をはじめとする市民が交流し、田村市への理解を深めることを目的に次世代移住定住会議＆移住者交流会が開かれ、16人が参加しました。

木製のお守りや絵馬を作ったほか、国登録有形文化財「旧大越娯楽場」を見学するなどし、親睦を深めました。参加者は「市の文化を学び、交流の輪が広がってよかった」などと話していました。市は、移住後のコミュニティー形成にも取り組んでいますので、お気軽にお問い合わせください。

問企画調整課 ☎61-7615

生涯学習セミナー そば打ち教室

昨年12月24日、滝根公民館で生涯学習セミナー「そば打ち教室」が行われ、星の村そば倶楽部の皆さんの指導のもと、参加者16人が十割そば打ちを体験しました。

その中で、そば粉を練って伸ばして切り、ゆでるまでの作業を自分たちで行いました。参加者は「水の量を調整するのが一番難しかった」などと話していました。自分で打ったそばは自宅へ持ち帰り、そば倶楽部の皆さんが打ったそばと天ぷらを参加者全員でおいしくいただきました。

福島県花き品評会の受賞者が市長に受賞報告

１月26日、第49回福島県花き品評会の表彰式が福島県農業総合センターで行われ、渡辺清一さん（都路町）の「精しろく（小ぎく）」が金賞（農林水産大臣賞）、佐久間カネ子さん（大越町）の「精はちす（小ぎく）」、鎌田俊夫さん（船引町）の「精しろく（小ぎく）」が銅賞を受賞しました。受賞者らは同日に市役所を訪れ、市長へ受賞報告を行いました。市長はこれまでの労をねぎらいながら、功績をたたえました。受賞者の皆さん、おめでとうございます。

地域おこし協力隊の本田さんに委嘱状交付

１月18日、市役所で市起業型地域おこし協力隊委嘱状交付式が行われ、本田進之介さんが就任しました。

市起業型地域おこし協力隊は、市内に居住し、地域特性を生かしたビジネスでの起業を目指すもので、本田さんはサウナ施設の開業を目指します。市長は「田村市の自然と共存した魅力あるサウナを楽しみにしている」と激励しました。

写真左から、副市長、市長、本田さん、協力隊を運営する（一社）Switchの久保田代表、事業化支援をする（株）MAKOTO WILLの後藤さん。

森林体験・環境学習教室

１月14日、滝根町の天地人大学で「森林体験・環境学習教室」を開催し、滝根町・大越町の親子連れ25組80人が参加しました。

同町で原木しいたけ栽培を営んでいる箭内幸一さん、ふくしま中央森林組合職員の皆さんにご協力（しょうりょく）をいただき、原木しいたけの植菌（しょくきん）作業と、木工教室としてプランター枠、ミニ・チェア作りを体験しました。参加者は、原木や製材などさまざまな木に触れる時間を楽しみました。

植菌した原木しいたけは箭内さんに大切に育てていただき、秋には収穫が楽しめそうです。